

地域経済をリードする 産業栽培メディア

コロンブス

MONTHLY COLUMBUS

ビジネスの新大陸を発見!!

11

2014
NOV.
700円

J:COMテレビにて「月刊コロンブスTV」を絶賛放送中!!

フアンドで

農林漁業成長産業化支援機構(A-FIVE)のスキームを活用

6次産業化

[特別編集顧問・浅野純次の「グローバル」人間図鑑]

農業・農民主体の6次産業化と
「5ボリス構想」が農村の未来を創る
今村奈良臣・農山漁村文化協会(農文協)会長

[大地の顔]

日本一の革財布・革小物の
集積地で使い勝手のいい
道具としての財布を製造
太田久昭・鞆ラモードコジダ課長

アジア進出の達人
[池田博義のGlobal Channel]

日本オリジナルの「わかり合う、ための
技術体系「聞き出す力養成講座」を
国内外に展開
山口賢一・クロスロード社代表取締役

[中山間地域レポート]

海、里、山すべてを含む白山市で
市町村合併を経て地域を考え、
動き出した鳥越地区
山下良平・中山間地域フォーラム会員・石川県立大学講師

【特選銘柄】
地域と共生し、地域に雇用を創る
地域のための6次産業化を目指す
大多和 藤・藤農林漁業成長産業化支援機構代表取締役社長





阿部和義
経済ジャーナリスト

オリジナルツアーの企画などに尽力 俳優として観光振興に力を入れる

マルチに活躍する俳優、辰巳氏は観光振興に力を入れている。

2014年9月20日に公益社団法人 日本観光振興協会(見並陽一理事長)が都内の東商ホール開いた「観光立国推進フォーラム」で「観光で日本を元気に」というトークセッションを行った。今回はその模様をレポートしたい。

俳優・観光庁アドバイザー

辰巳琢郎

たつみ・たくろう

トークセッションで、辰巳氏は次のように語った。

辰巳 このところ毎年2回、国内と海外のツアーを企画しています。この秋にはバルカン半島8カ国を旅してきました。旧ユーゴスラビア7カ国とアルバニアです。かつてユーゴはチトー大統領のもとでまとまり20世紀の奇跡といわれていましたが、現在は7カ国に分裂しています。マケドニアは東京オリンピックが開かれた前年の1963年に地震があり、大きな被害を受けたのですが、その際に日本の建築家である丹下健三氏が復興に尽力したことで知られています。今回の旅ではその街の様子も見る事ができました。そ



トークセッションの様子

のほか、モンテネグロの元は秘密基地だったワイナリーやコトルの中世の要塞の街並みなども印象的

でした。このところクロアチアの世界遺産のドブロブニクを訪れる日本人観光客が増えています。その先にあるコトルまで足を伸ばすとより充実した旅になると思います。それから、いずれの国でもワインが造られ、个性的でおいしかったです。

質疑応答の時間には次のようなやりとりがあった。

——観光庁のアドバイザーとして気を付けていることはどんなことでしょうか。

辰巳 海外に行くときにはその国の現地語の「ありがとう」「こんにちわ」のふたつの言葉を覚え、できるだけ使うようにしています。現地の人たちからも親しみを持ってもらえるので、スムーズに観光ができます。

国内の観光面では、タクシー代などが海外に比べて高いように思います。私鉄にしてもJRにしてももともと安くなくはないですね。たとえば、海外からの観光客は安く乗車できるといった仕組みを考えてもいい

かもしれません。

——観光で地方を元気にするためにはどうしたらいいのでしょうか。

辰巳 食が大切ではないでしょうか。その土地にある食材を提供することで、お酒も重要。日本は地酒もワインも良質ですから、きつと喜んでもらえるはず。そのときには日本のブドウで造ってほしいですね。その地方の材料でワインを造ったら、外国人旅行者は喜んでくれるはず。輸入ワインをわざわざ使う必要はありません。ワインにかぎらず、観光においてはその土地のものを味わってもらい、楽しんでもらうことが原則です。日本には美しい四季があり、水も豊富で治安もいい。本当に恵まれた国だということを認識すること。また、地方の人は自分の地域に自信を持つことが大切だと思います。

知性・品格・遊び心と三拍子揃った俳優。みずから企画した『辰巳琢郎の葡萄酒浪漫』(毎週日曜23:30~/BSジャパン)などが好評。JCBゴールドに巻頭エッセーを連載中。著書に『ゼロから始めるワイン入門』ほか。日本ワインを愛する会 副会長。京都大学文学部卒業。大阪市出身。

「あべ・かずよ」1942年生まれ。東京大学卒業後朝日新聞に入社。経済部の記者。名古屋本社の経済部デスクの後、経済部編集委員。電波メディアア局局長補佐を歴任して02年7月に定年退社